

# NT

NISSEKI TOKYO

2017  
Summer  
Vol.14



人と人、ぬくもりの話。

- 04 平成28年度活動資金の使途報告

06 れっどくろす News&Topics

特集

08 **温 —人と人、ぬくもりの話。—**

22 赤十字Supporters

23 Hospital Referral  
武藏野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字産院

26 献血 NEWS

27 福祉施設 NEWS

28 国際 NEWS

29 行け!OLレポーター オカモト★ 日赤とつげきレボ<sup>®</sup> —vol.8 世界赤十字デーin表参道2017 編—

30 NT information

31 活動資金協力者(社)・団体のご紹介

32 プレゼント

34 Rediscovery TOKYO —第7回 青ヶ島—

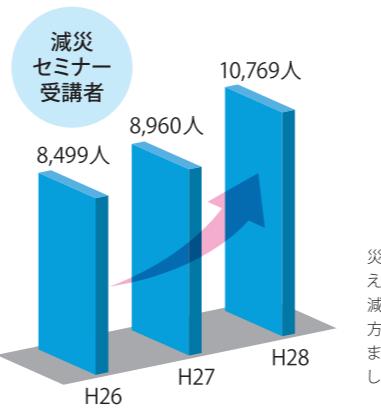


日本赤十字社東京都支部は  
創立130周年を迎えます。  
人が支え合う安全、安心な社  
会づくりに貢献するために、  
赤十字はヒタムキに、ジミチ  
に取り組みます。

# 私たちのジミチな活動は、 皆さまのご協力に支えられています。



日本赤十字社熊本県支部に到着した救護班 (4月17日)



災害の発生を防ぐことはできませんが、備えることにより災害の被害をできるだけ減らすことはできるという「減災」の考え方を普及しています。平成28年度はこれまで最も多い132回のセミナーを開催し、受講者は初めて1万人を超ました。

日本赤十字社は2016年4月に発生した熊本地震災害で大きな被害を受けた地域に全国から救護班を派遣。日々の備えが重要です。東京都支部では必要な救護資機材を準備するところに、平成28年度は年間で49日の訓練・研修を実施。関係機関との連携も深めています。

6月2日。突発的な災害に対応するために、必要な備えが重要です。東京都支部では必要な救護資機材を準備するところに、平成28年度は年間で49日の訓練・研修を実施。関係機関との連携も深めています。

## 奉仕団・青少年赤十字の支援 10.7%

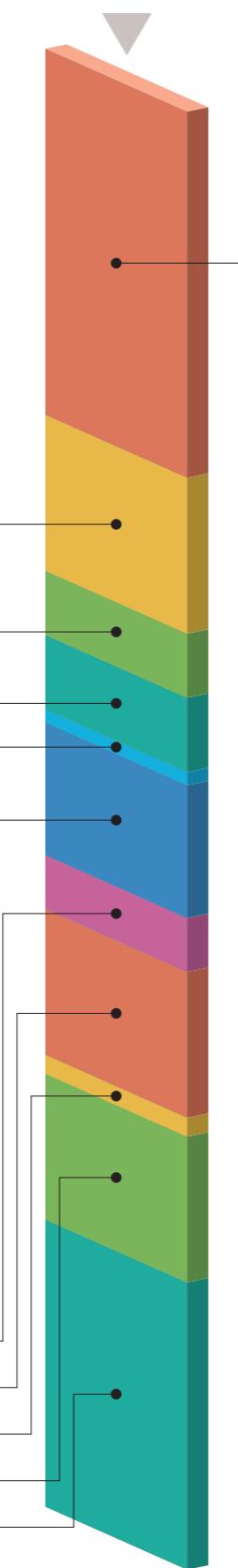


地域に密着した赤十字の活動を担うボランティアを支援するとともに、地域の子どもたちが災害に対応できるよう、その育成にも寄与しています。同時に、さまざまな研修や学習プログラムを通じて地域に赤十字を広めています。

## 救急法等の講習普及活動 4.4%



災害時だけでなく、日常にもひそむけがや病気などのリスクへの対応も、結果として多くの苦しむ人を救うことにつながります。社会のニーズや受講者の視点も踏まえながら、多くの方に受講していただけるよう工夫しています。





## 武藏野・大森・葛飾の病産院で運動月間にあわせフェスタを開催

赤十字運動月間にあわせ、都内3つの病産院では毎年、各施設でイベントを開催しています。病院を利用している方や地域の方々を招き、それぞれの施設が工夫をこらしたプログラムで、来場された方に楽しい時間を過ごしていただいている。

今年は5月13日に武藏野赤十字病院、20日に大森赤十字病院、27日に葛飾赤十字病院でイベントを開催。参加した方からは「赤十字の活動を間近で知ることができました」という感想や、「遊べるコーナーや体験コーナー、いろいろあって自分も子どもも楽しめました」「AED体験の説明がわかりやすく、とても勉強になりました」というコメントをいただきました。



## 学校の先生も夏の準備 教師対象の水上安全法講習

学校の先生を対象にした水上安全法の短期講習が6月1日、東京都支部で開かれました。この講習は、水中の実技がなく「会議室で学べる」のが特徴。講義とシミュレーション会場での訓練がセットになったものです。

参加者からは「シミュレーションにも関わらず人がおぼれている演技にパニックになってしまった」「部活やプールの授業で活かしたい」などの感想が寄せられました。



迫真的演技に受講者も本気に

## 高校生ボランティアが活躍! 上野動物園迷子相談ボランティア



期間中、保護した迷子は147人

ゴールデンウィークに多くの家族連れで賑わう上野動物園では、今年も高校生の青少年赤十字メンバーを中心とした迷子相談ボランティアが活動しました。迷子を防ぐための迷子札の配布や迷子の搜索、園内のパトロールなど、6日間の活動にのべ186人が参加しました。

参加したメンバーからは、「迷子の保護者が見つかった時は、自分のことのようにうれしかった」などの声が聞かれました。

## フィリピンに看護師2人を派遣 地域保健衛生事業に従事

武藏野赤十字病院の高田亜由子看護師と間由佳看護師がフィリピンにおける保健衛生事業のため4月から現地に派遣されました。任期は6か月間の予定です。

高田看護師はルソン島ヌエヴァアヴィスカヤ州、間看護師は2013年11月の台風「ハイエン」の被災地・セブ島北部ダアンパンタヤン郡に派遣。いずれも日赤が継続的に支援を実施してきた地域です。出発にあたり2人は「現地スタッフと協力しながら事業を遂行したい」と決意を語りました。



高田看護師(左)と間看護師(右)

## 赤十字運動月間に都内各地で 赤十字フラッグを掲出

5月の赤十字運動月間に都内各地の駅頭でのPRなど、さまざまななかたちで皆さまに赤十字にふれていただくことができるよう努めています。

今年は、東京都支部がある大久保、新宿、そして表参道の街路灯に赤十字フラッグを掲出。地域の方々の協力のもと、街を訪れる多くの方に赤十字をPRしました。

- 01 新宿通り 5月22日～6月9日
- 02 大久保通り 5月1日～5月19日
- 03 表参道 5月1日～5月14日



## 救護員として活動するために 職員が災害救護基礎訓練



苦しんでいる人を救う決意を新たに

日本赤十字社東京都支部では、職員が救護員として活動するために必要な知識と技能の習得をめざし災害救護基礎訓練を実施しています。6月15、16、22、23日の4日にわたり開かれた今年の基礎訓練には、都内の各赤十字施設で働く職員36人が参加。救護員としての基礎的な行動や救援用資機材の使用法、災害時の応急手当などについて座学と実技を通して学び、最終日には災害時を想定した災害救護総合演習を体験しました。

### 楽しく学べるお仕事体験イベント

#### 丸の内キッズジャンボリー 2017

ワークショップ

#### 「つながるいのちいのちのち」

日時: 2017年8月15日～17日

会場: 東京国際フォーラム

対象: 小学4年～6年

定員: 各回36人(1日4回)



#### “はたらくるま”やハートラちゃんに会いに来て!

#### 第4回有明防災フェア

日時: 2017年8月11日～13日

会場: 東京臨海広域防災公園

参加団体: 自衛隊、東京消防庁、江東区など

防災関係機関のブースや“はたらくるま”が集まるイベント。ハートラちゃんも登場します。



※写真はいずれも2016年のものです



# 人と人、 ぬくもりの話。

愛情、人を思いやる気持ち、肌で感じる体温。

“温もり”を感じる瞬間は、誰もが幸せな気持ちになる。

赤十字活動の源ともいべき「人を思いやる気持ち」はまさに“温もり”そのもの。今回の特集では、赤十字が関わる「医療」の現場から切り取った

3つのシーンで人を支える“温もり”を感じる場面をお届けしたい。

辿り着くとも容易ではない、断崖絶壁に囲まれた

「青ヶ島」で暮らす人々の生活や島民の健康を支えている医療事情。

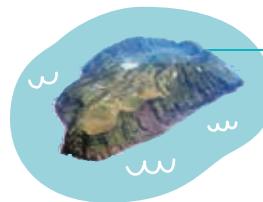
新しい命が日々誕生している現場からは、  
日常に溶け込んでいる“温もり”的瞬間を。

そして、入院患者さんの「食」を支える現場からは、  
病院食に込められた配慮や作り手の熱意をお伝えする。

島を愛し、人を愛する、  
温もりに満ちた暮らし。



1 青ヶ島の最高地点、標高 423m の大凸部（おととんぶ）から見た池之沢地区。中央の小さな山は、1785 年の「天明の大噴火」で形成された標高 223m の内輪山・丸山で、青ヶ島は二重カルデラが特徴

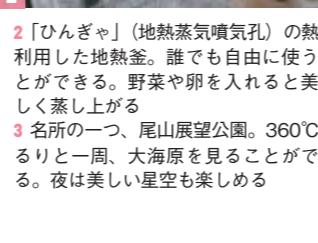


## What's Aogashima

人 口: 110世帯 167人 (2017年  
5月1日現在)  
面 積: 5.97km<sup>2</sup>  
特産品: 青酎(焼酎)、ひんぎやの  
塩、ひんぎやの島とうが  
らし、島だれなど



4 9人乗りのヘリコプター「東京愛らんどシャトル」。八丈島との間を1日1往復している。連絡船より就航率が高く、島の貴重な交通手段である



2 「ひんぎゃ」(地熱蒸気噴気孔)の熱を利用した地熱釜。誰でも自由に使うことができる。野菜や卵を入れると美しく蒸し上がる

3 名所の一つ、尾山展望公園。360℃のりと一周、大海原を見ることができる。夜は美し星空も楽しめる



ばならず、病院もないため助かるはずの命を失うことも多かった。今でこそ船は着岸できるが、戦後もない時期は、船（波止場と船を結ぶ小舟）で渡すほかなかつた。今でも、黒潮の荒波で船を係留しておくことはできず、漁船はクレーンで陸の上に揚げておかなければならぬ。

過酷な生活を共にしてきた歴史ゆえか、約170人という超小規模なコミュニティのおかげか、島の人たちは本当に温かい。すれ違う人に挨拶するのは当たり前だし、こちらが名乗れば、すぐに打ち解けてくれる。

島への愛情がたっぷりある。

島が忘れられない。「島のどこが好きですか?」と質問すると、みんな、すごくいい表情になるんですよ」。生意気盛りの小学生男子ですら、「島の嫌いなところってないの?」の質問に、「まあ、『コンビニはないけどな』と照れ笑い。皆、本当に島を愛しているのだ。

「コンビニも映画館もショッピングモールも、何もない。でも、青ヶ島には都会が失ってしまった『人の温もり』と、自分たちが暮らす



## 全島民避難からの帰還、 『還注』の歴史

島は断崖絶壁に囲まれている。海水浴を楽しむような砂浜は、残念ながらない。島の名物は、火山の噴気孔（ひんぎや）だろう。今もひんぎやからは蒸氣があがり、その地熱を利用したサウナがある。特產品はひんぎやの熱で乾燥させた塩や島唐辛子。江戸時代、噴火により全島民が八丈島に避難、帰島までに50年もの歳月がかかつたという苦難の歴史も持つ。1983年に発表された小説『黒潮物語』（小沢さとし著）によると、電気や車がなかった頃の島の生活は過酷だった。水を汲むため

青ヶ島をご存知だらうか？「東京都なんですよ」と言うと、みな驚く。東京都心から南へ約360km、最寄りの八丈島からの交通手段は船かヘリコプターのみ。天候次第で船は欠航しやすく、就航率の高いヘリは9人乗り。ヘリは、予約受付開始後、すぐに満席となることもしばしばだ。

青ヶ島では四つの苗字が島民の半分くらいを占め、名前を聞けば島の出身者かどうかは、すぐわかる。ちなみに、島の住所はすべて「東京都青ヶ島村無番地」。郵便物は名前を頼りに配達される。人口は110世帯167人（2017年5月1日現在）。日本で最も人口の少ない自治体だ。

役場を中心に、郵便局、駐在所、学校などの施設がまとまっている。島唯一の診療所も同じエリアにあります（島の医療については14～15ページを参照）。役場の向かいに建つ「おじやれセンター」の1階が診療所、2階が高齢者向けの在宅サービスセンター、3階が保育所になっています。「おじやれ」とは島の言葉で「いらっしゃい」の意味だ。

商店は一つしかないが、生鮮食

品や菓子、飲料、日用雑貨など、ひと通りのものは揃っている。島のお土産もここで買う。

居酒屋は2軒。その一つである「もんじ」はカラオケが売りで歌の好きな島民たちが毎晩歌い明かしている。

このほかに島の娯楽施設と呼ぶのは、カルデラの池之沢地区にある、ひんぎやの地熱を活用した「ふれあいサウナ」くらいだろうか。「ひんぎやの塩」「ひんぎやの島とうがらし」などの特産品も、地熱を利用してつくられている。

### 地熱を活用したサウナ

## 日本で最も人口の少ない村

# 商店も学校も診療所も、島に一つだけ。——青ヶ島の暮らし

1 社会福祉協議会主催のバザーが開かれていた「おじやれセンター」の玄関。行事があると必ず村総出になるという／2 青ヶ島小中学校の校庭。休み時間に遊ぶ子どもたち／3 釣りはこの島の楽しみの一つ。「ここは太平洋に舟を浮かべているようなものだからね。カンパチとか、何でも釣れるよ」（廣江彦一さん）／4 土木関係の仕事に従事している島出身の奥山正さん。工事が一段落した後、本土に遊びに行くのが楽しみ。「この島の魅力は何もないところ、体が元気で酒が飲めれば幸せだよ」と笑う／5 廣江竜一くん（右）と廣江輝（ひかる）くん（左）。ともに中学2年生。竜一くんは小さい頃、頭を打ってへりで救急搬送された経験がある。輝くんはサッカー選手になるのが夢／6 居酒屋「もんじ」にて。カラオケ好きが毎晩集う、貴重な憩いの場



### 青ヶ島村 村長

#### 菊池 利光さん

島の名物である星空とカルデラの噴気孔が海外でも話題になっていて、外国人観光客もよく来てくれるんですよ。島にはここ数年、30代の若い世代が帰って来ています。島に赴任して来る人たちも、すぐに島民と親しくなるから島を気に入ってくれる人が多いですね。ここには、都会にないものがあるのでしょうかね。



### 青ヶ島村役場勤務

#### 保育士 廣江 弘美さん

島の名物である星空とカルデラの噴気孔が海外でも話題になっていて、外国人観光客もよく来てくれるんですよ。島にはここ数年、30代の若い世代が帰って来ています。島に赴任して来る人たちも、すぐに島民と親しくなるから島を気に入ってくれる人が多いですね。ここには、都会にないものがあるのでしょうかね。



### 青ヶ島村立青ヶ島中学校 副校長

#### 川島 隆さん

赴任3年目。島に来てから釣りを始めました。もちろん島民の方が先生です。土地を貸してくれる人もいて、家庭菜園にも挑戦しています。島にすっかり馴染んでしまい、この先、都会に戻れるか不安です（笑）。子どもたちちは宝。島の子どもたちには、故郷を大事にしてほしいと願っています。



### 「ひんぎやの塩」工場勤務

#### 日高 朋子さん

神奈川県出身。4年前、民間企業に勤めていた夫が青ヶ島村役場に転職して、1ターンしてきました。娘は今年、小学1年生に。島での生活は、不便だと思うこともあるけれど、いまはネット通販もあるし、それほど困らないかな。窓を開けると海が見えて、空や星がきれいなのが何よりの魅力ですね。



### 「ふれあいサウナ」管理人

#### 廣江 彦一さん

中学卒業後、大工修行で八丈島に行って、30年ほど建築業をしていた。親が残してくれた山や土地があったので戻って来ただ。10年前から、「ふれあいサウナ」の管理人をやっている。サウナできちんと温まるといふやつなんてひかないよ！俺は冬でも、靴下も手袋もしたことがない。島の魅力は、なんといっても人と人とのつながりだね。



### 小学5年生

#### 廣江 もみじさん

島が大好き。自然がいっぱいあって面白い。ダンスが好きで、将来の夢はダンサー。三代目J Soul Brothersの振り付けをアレンジしたり、自分で振り付けることも。ダンス好きの島の人が教えてくれるけど、私の方が上手かな（笑）。私以外のメンバーはみんな大人で、ダンスは夏の牛祭りでも披露しているよ。



5 処置室。重篤な症状の場合でも、救急搬送するまでに必要な処置ができるだけの設備が整備されている

6 採血した血液を測定する機械。このほか、血圧計や心電図、ポータブル人工呼吸器、除細動器なども。診療所の医師は、これらすべてを使いこなす必要がある



6

5



7

7 診療所のスタッフ。左から2人目が松平医師。看護師（右2人）は業務の引き継ぎ中。通常は1人だ。左端は役場から派遣されている事務スタッフ



9

8 風邪薬や痛み止め、湿布、歯科の薬などは診療所で出せるが、高血圧や糖尿病などの薬は種類が多いため島外の薬局で調剤して郵送してもらうこともある  
9 レントゲン室。今回の巡回診療では、脊柱側彎症（せきちゅうそくわんじょう）の疑いや、足腰の痛みで受診した島民のレントゲンを大塚技師が撮影

喉科にも全部かかるつもりだよ」と話す。  
整形外科は今回、宍倉医師と放射線技師の大塚雅俊さんの2人が派遣された。レントゲン撮影はふだん松平医師が行うが、医療設備へのアドバイスや機器のメンテナンスなど、専門医や技師が来た際

医師の確保は、島の長年の悲願だった。確保が困難な時期が続いたが、1972年以降、自治医科大学で養成した医師をへき地に派遣する仕組みができ、青ヶ島にもようになつた。松平医師も自治医療に携わり、今年4月に青ヶ島に赴任して來た。

たが、1972年以降、自治医科大学で養成した医師をへき地に派遣する仕組みができ、青ヶ島にもようになつた。松平医師も自治医療に携わり、今年4月に青ヶ島に赴任して來た。

1日の受診は3～5人程度だが、緊急時には救急ヘリの手配など迅速な判断が求められる。青ヶ島で年に3件ほど、伊豆諸島全体では年間200から300件、救急ヘリが出動しているという。

青ヶ島は高齢化率が低い。それは、元気な人しか暮らせないことの裏返しだ。例えば人工透析を受けるためには八丈島まで出なければならない。島から出て行かざるをえないのだ。「都会と同じような医療資源に限りがある」と松平医師。一方で、「急患は少ない」ので、ふだんは予防と検診に力を入れられる良さもある」とも。診療所に医師が1人という体制は不十分かもしれないが、長年の努力によって医師が常駐する体制が整備されたことの意義は大きい。今回、初めて離島の医療支援に参加した大森赤十字病院の宍倉医師は、「私たちの巡回診療が、松平医師など島の医療を支える医師の一助になればうれしい」と話す。

島民の命を支えるには、多くの人々の支え合いが必要だ。だからこそ、島の住民やこの島に関わる人たちは、みんな温かいのかもしない。

### 青ヶ島の医療事情

に相談する事柄は多いといふ。大塚技師も「レントゲン技術もどんどん変わるし、最新知識を伝えるのも重要な仕事」と語る。

医師の確保は、島の長年の悲願だった。確保が困難な時期が続いたが、1972年以降、自治医科大学で養成した医師をへき地に派遣する仕組みができ、青ヶ島にもようになつた。松平医師も自治医療に携わり、今年4月に青ヶ島に赴任して來た。

青ヶ島は高齢化率が低い。それは、元気な人しか暮らせないことの裏返しだ。例えば人工透析を受けるためには八丈島まで出なければならない。

島から出て行かざるをえないのだ。「都会と同じような医療資源に限りがある」と松平医師。一方で、「急患は少ない」ので、ふだんは予防と検診に力を入れられる良さもある」とも。診療所に医師が1人という体制は不十分かもしれないが、長年の努力によって医師が常駐する体制が整備されたことの意義は大きい。今回、初めて離島の医療支援に参加した大森赤十字病院の宍倉医師は、「私たちの巡回診療が、松平医師など島の医療を支える医師の一助になればうれしい」と話す。



1



1 「はい、後ろにぎゅーっとそらしてみて」。宍倉医師（整形外科）による小学生の健診風景

2

3

4

2 レントゲンの機材チェックも、大塚技師の大事な仕事

3 宍倉医師（左）は今回が巡回診療初参加。放射線技師の大塚技師（右）は他の島の医療支援にも参加したことのあるベテラン

4 診療所には、基本的な検査や診療ができるよう機材が揃っている。もちろん視力検査表も

青ヶ島村の中心にある「おじやれセンター」。そこに、村唯一の診療所がある。医師と看護師が1人ずつ常駐しているが、専門的な医療には限りがあることから、東京都では専門診療を行っている。日本赤十字社東京都支部もこの事業に協力し、毎年青ヶ島に医療スタッフを派遣している。

### 年に一度、専門医がやって来る

「はい、立って片足立ちしてみてね。じゃあ次に、ぎゅーっとしゃがみ込めるかな?」——大森赤十字病院の整形外科・宍倉亘医師が、健診に来た子どもに指示する。「うん、大丈夫そうだね。おしまいです」。

この日は、年に一度の専門診療の日。今年は整形外科が2日、眼科が3日、耳鼻咽喉科が1日という診療日程で医師たちが島にやって来た（眼科は悪天候による飛行機の欠航で2日に短縮）。プールのシーズンを控えた子どもたちの健診のほか、診療所の松平慶医師に専門医の診察を勧められた患者さんなどが受診に来る。

足の痛みがあり、診察を受けた奥山タカ子さんは、「出張して診療に来てくれて、こんなにありがたいことはないね。眼科にも耳鼻咽喉科などが受診に来る。

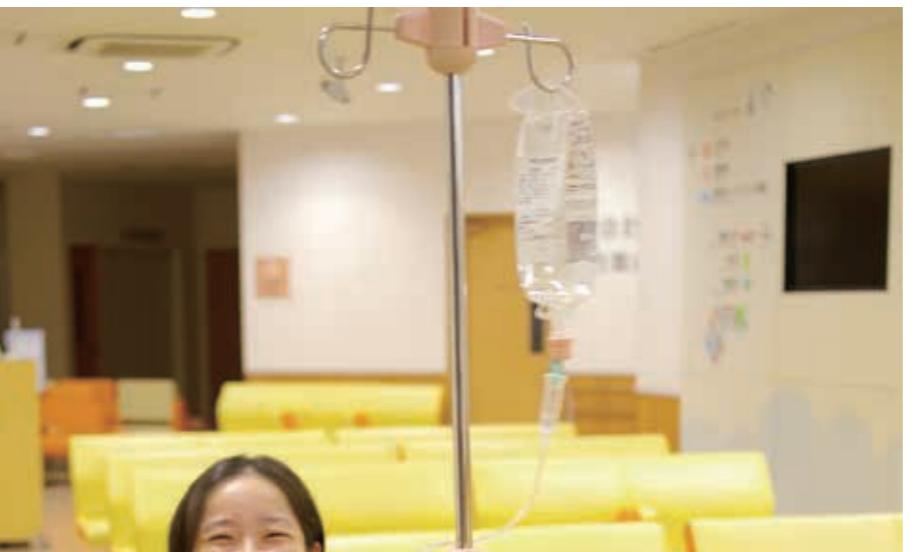
青ヶ島は高齢化率が低い。それは、元気な人しか暮らせないことの裏返しだ。例えば人工透析を受けるためには八丈島まで出なければならない。島から出て行かざるをえないのだ。「都会と同じような医療資源に限りがある」と松平医師。一方で、「急患は少ない」ので、ふだんは予防と検診に力を入れられる良さもある」とも。診療所に医師が1人という体制は不十分かもしれないが、長年の努力によって医師が常駐する体制が整備されたことの意義は大きい。今回、初めて離島の医療支援に参加した大森赤十字病院の宍倉医師は、「私たちの巡回診療が、松平医師など島の医療を支える医師の一助になればうれしい」と話す。

# 命が誕生する場所は、温もりに満ちている。

人が人を思い、支える気持ちがあふれている。

日常の中に溶け込んでいる何気ない瞬間に自然と“温もり”が表れる。

多くを語りづとも、誰もがやさしい気持ちを引き出されられるような雰囲気がここにはある。



撮影場所：葛飾赤十字産院



武藏野赤十字病院栄養課の佐々木佳奈恵係長（左）と原純也課長（右）。2人とも管理栄養士で、がん専門管理栄養士など多くの資格を持つ

入院中の患者さんの生活を支える「病院食」。「美味しい」、「画一的」というイメージを持つ人も多いかも知れません。しかし、いまや病院食は、患者さん一人ひとりに合わせたオーダーメイド。少しでも快適に入院生活が送れるよう、より美味しい食事をめざしています。

# 患者さんの「ありがとう」に支えられて。——「病院食」に込められた思い

献立が同じでも、患者さん一人ひとりに違う食事を用意しているといつても過言ではありません。

「ここに入院して良かった」と感じてもらえるように

「がん患者さんは個別対応の食種を数種類用意しています」と教えてくださったのは、武藏野赤十字病院の管理栄養士、佐々木佳奈恵係長。化学・放射線治療をしている患者さんは味覚障害が出ることもあるため、味のはつきりした「ひまわり食」。食欲のない患者さん向けには食事量を少なくした「たんぽぽ食」、逆に栄養をつけなければならない患者さんは、栄養やエネルギー量が十分とれる「さくら食」を出しています。年齢によって必要なカロリー量も違えば、アレルギーへの対応も。

「食事づくりはきつい仕事のめ、常に人手不足であるなど苦労も多いですが、患者さんからの“ありがとうございます”ですべてが救われます」と原純也課長は語ります。ある腎臓病の患者さん。「まずいから」と病院食に手をつけませんでしたが、丁寧に食事の必要性などを説明したところ、食べてくれるようになります。「こういう時にやりがいを感じますね」。「入院したのがこの病院で良かった」——そう感じてもらえるよう、栄養課スタッフたちの奮闘は続きます。

作り手の熱意が実現する、  
効率と配慮の共存。——病院食の舞台裏



- 4 配膳車へのセッティングを待つ食事たち。  
昼食を心待ちにしている患者さんのもとへ
- 5 美味しく見えるよう工夫しながら小鉢の盛り付け



- 6 配膳車に積み込んでからも、間違いがないか再度確認
- 7 患者さん一人ひとりに正しい食事が行き渡るために、膨大な事務作業もこなさなければならぬ





- 約200食の回鍋肉を大鍋でつくる
- 現場スタッフたちは皆若いが、慣れた手つき
- アレルギー対応食。食器のフタにつづつ札を貼っていく

1回に約400食

武蔵野赤十字病院はベッド数611。食事のとれない患者さんなどを除き、1回に約400食を提供しています。一般食は約半分。残りは治療食などの特別食だそうです。

「特別食のおにぎりなどは、いかに味がかぶらないようにするかが大変ですね」と話すのは現場管理責任者の北嶋洋子さん。特別食をつくる一人には、「個別対応食の薬味サイクル」、おにぎりやサンドイッチの具の種類が、表になつて貼り出されています。サンドイッチなら月曜日はハムとチーズ、火曜日は卵、といった具合です。

食事が器に盛られると、

「E2C」——素人にはまったく意味がわかりませんが、種類の多さには納得。

始。トレーに患者さんの名前と食事内容が書かれたプレートを乗せ、「糖質制限食、ごはん100！」などと先頭の係が叫ぶと、ベルトコンベアーで運ばれていくトレーに、指示内容に沿つたご飯やおかずが乗せられてきます。間違いかないか確認後、配膳車にセッティング。

北嶋さんによれば、個別対応食や  
「えんげく」下食など、武藏野日赤は他の病院  
と比べてもきめ細かい対応なのだと  
か。現場スタッフの苦労がしのばれ  
ますが、「患者さんに間違いなく食事  
を届けたい」という熱意と緊張感み  
なぎる現場でした。



株式会社LEOC 北嶋 洋子さん

現場管理責任者として、武蔵野日赤の食事を管理。「栄養士17年目。新人教育は大変ですが、やりがいを感じますね」。モットーは“明るく、楽しく、元気よく”

## 赤十字 Supporters

# 「世のため、人のため “畠”は違えども志は同じです

真如苑（立川市）

私たち真如苑と日赤さんとの関係は、昭和28年7月の北九州水害から始まりました。信徒から寄せられた衣料品などを、日赤さんのトラックが真澄寺（本山寺院）まで受け取りに来てくださいり、被災地へ届けてくださったことが始まりです。以来、長年にわたって日赤さんにはお世話になっています。

真如苑には立教時から「世のため、人のため」という基本的な考え方があります。周囲の方々に喜んでもらえる行い（利他行）こそ自分の心を磨くための実践と考えるのですが、奉仕活動はその一つ。ですから、私たちにとって支援活動は、皆さまのお役に立つための社会奉仕であるとともに、修行として真心を込めて行うものなのです。

例えは、昭和46年から続けれている早朝奉仕（清掃活動）。立川駅から始まり、現在では全国約4850か所の公共の場所で行われています。また、災



昭和28年7月の北九州水害の際、日赤東京都支部を通じて支援物資を送る真如苑・伊藤真乗開祖（写真提供：真如苑）



寄贈いただいた献血車で行われた献血。真如苑にて（写真提供：真如苑）



左から、広報課・西森基文主務、社会交流課・八本俊之課長、広報課・平島進史課長

害発生時には、真如苑救援ボランティアSeRV (Shinnyo-en Relief Volunteers : サーブ) を組織して、信徒と職員が一体となつて災害支援活動を行っています。東日本大震災の時も、日赤さんと協力して支援活動を行っています。日本赤十字社東京都支部立川災害救護倉庫で、毛布や洗面用具など救援物資の積み込みのお手伝いをさせていただきました。

他にも、財団を設立して教育支援や高齢者福祉などの分野でも活動していますが、広範囲で専門的、よりきめ細やかで行き届いた支援は、私たちだけでもきることではありません。日赤さんや他団体との連携や協力に支えられています。日赤さんとは開祖の時代から長年、献血や災害時の支援活動などで協力関係にあり、信徒の真心こもる浄財を細やかに生かしてくださっていることに感謝しています。

日赤さんと真如苑は根本理念で通じるところがあると感じています。今後も良い関係を築きつつ、社会のお役に立てるように取り組んでいきたいと考えています。

## 武藏野赤十字病院

- 所在地 〒180-8610 東京都武藏野市境南町1-26-1
- 連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日 (赤十字創立記念日)、年末年始
- 病床数 611床 (一般 528床、ICU 8床、HCU 22床、CCU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症 20床)

外科医  
加藤 俊介  
Shunsuke Kato



武藏野赤十字病院では今年、新たに腹腔鏡手術トレーニングセンターを設置しました。名前の通り、腹腔鏡手術のレベルを底上げする役割を担います。

# 安全で質の高い手術を

腹腔鏡手術トレーニングセンターを開設

近年、腹部手術のキーワードは「低侵襲」（身体のダメージをより少なくする治療）です。高齢の患者さんが増加する中、なるべく負担をかけずに治療を行うことが重要になっています。その代表が腹腔鏡手術です。手術内容はお腹を大きく切る開腹手術と同じなのに、小さな傷だけで済む手術です。

傷の痛みが少ないため、手術後早くから動くことができます。高齢の患者さんは1日寝たきりになると、元に戻るのに3日かかると言われているので、手術の翌日から歩くこともできる腹腔鏡手術はメリットが大きいと言えます。

### 技術的には難しい手術

一方、医療者側からすると難しい手術です。開腹して直接触るのではなく、腹腔鏡を使ってモニターに患部を映し出し、それを見ながら手術をするためです。技術が伴わない手術チームが腹腔鏡手術を行うと、かえって患者さんに迷惑をかけてしまいます。

当院では胃がん・大腸がん・腎

がん・副腎がん・尿管がん・子宮体がんなどで腹腔鏡手術を取り入れ、その比率が増加しています。例えば、大腸がんの約半分が腹腔鏡手術です。虫垂炎・胆石症・鼠径ヘルニア・良性副腎腫瘍・子宮筋腫・良性卵巣腫瘍などにおいても積極的に腹腔鏡手術を行っています。

### 研修医や若手医師を指導

患者さんにメリットの大きい腹腔鏡手術を安全に提供できるようになりますことが、腹腔鏡手術トレーニングセンター設置の目的です。具体的には、腹腔鏡に習熟したトレーニングセンタースタッフ（外科医、婦人科医、泌尿器科医で構成。筆者も一員です）が院内の研修医や若手医師に定期的にトレーニングボックスを用いた技術指導を行います。



トレーニングセンターにおける技術指導



手術はモニターに患部を映し出して行う



## 大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始 (急患は随時)
- 病床数 344床 (一般326床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

気温と湿度が上がってくると、食中毒のニュースを耳にすることが多くなります。病院で食中毒が起きると患者さんの命に関わるため、病院食の衛生管理には細心の注意をはらっています。

# 食中毒を「+α」の知識で予防!

プラスアルファ

「時間」と「温度」がポイント

当院では、国際的な衛生管理方法であるHACCP（危害分析重要管理点）の手法を取り入れてマニュアル化し、調理業務に生かしています。

今回はその中から、家庭での食中毒予防に役立つ「T&T管理（時間と温度の管理）」についてご紹介します。これは、食中毒の原因菌やウイルスが食中毒を起こすまでの数に繁殖するには一定の「時間」と「温度」が必要となることを食中毒予防に生かす手法です。

「10°C以上65°C以下」に  
2時間以上放置しない

## 解凍も冷蔵庫内で!

気温が上がる時期は、冷凍食品の解凍も、常温ではなく冷蔵庫内で行うのがおすすめ。バーベキューなど野外では、中心までしっかりと加熱調理してその場で食べきりましょう。

当院では管理栄養士が、病院内のお便りや区民公開講座などで食や健康に関する情報提供も行っています。ぜひご覧ください。

## 家庭でも食中毒予防を! ～T&T管理のポイント～

- ①食品は冷蔵庫へすみやかに保管する
- ②調理済みの食品は調理から2時間以内に食べきる
- ③調理済み食品の作り置きや残った分の保存は、氷や流水を使い急速に冷やし、冷蔵庫に保管
- ④室温保存をしない、温め直し（再加熱）を過信しない
- ⑤冷蔵庫の温度チェックを定期的にする（10°C以下）



当院の管理栄養士(前列4人)と給食スタッフたち(株式会社メフォス)

## 葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表)
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床 (産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

葛飾赤十字産院を支えてくれているボランティアのひとつが葛飾裁縫奉仕室です。文字通り、無償で針仕事をしてくれています。

看護係長  
荒巻 東香  
Haruka Aramaki



# 赤十字ボランティアが大活躍

高い技術を持つ葛飾裁縫奉仕室

葛飾赤十字産院を支えてくれているボランティアのひとつが葛飾裁縫奉仕室です。文字通り、無償で針仕事をしてくれています。

葛飾赤十字産院を支えてくれているボランティアのひとつが葛飾裁縫奉仕室です。文字通り、無償で針仕事をしてくれています。

## 明治時代からの伝統

日本赤十字社の裁縫奉仕活動は明治時代に遡ります。葛飾裁縫奉

仕室の立ち上げは1996年のこと。それから約20年間、月1回の活動を続けています。

取材にお邪魔した日は11人のボランティアが参加。どのメンバーも裁縫が趣味、あるいは仕事としていた人で、70～80代とは思えない機敏さで本日の依頼品に取り組んでいました。この日は「ミルク瓶運搬時用覆い布10枚」「足袋25足（産婦用）」。この5月で引退された前室長の戸田十志子さんを中心

の赤ちゃんが使用するミトンやシーツ、産婦用の足袋、青少年赤十字のスカーフなどさまざまな品を手がけています。縫製のプロからも「非常に質が高い。ボランティアの縫製レベルではない」と太鼓判を押しています。

## 世代交代の足音も…

活動に誇りを持ちつつ楽しんで

いるメンバーたち。しかし、年齢を重ね「そろそろ引退しようかしら」との声も聞こえます。

前室長の戸田さんはこの春、36

年のボランティア活動に終止符を打ちました。メンバーからは続投してほしいと何度も引き止められ

たそうです。産院からは感謝の気持ちを込めて花束を贈呈しました。

産院も支部の活動も裁縫奉仕室に支えられています。特に、既製品では対応できないものが多くある病院にとって裁縫奉仕室はかけがえのない存在です。これからも母と子を支えてくれる裁縫奉仕室が継続していくよう、新しい世代の参加も期待したいところです。



早く丁寧に、黙々と作業に取り組みます



作業前に丁寧な打ち合わせ。写真右端が戸田十志子さん

## 武藏野赤十字保育園

「ぬいぐるみ病院」で  
自分の身体のことを知ろう！



学生たちから身体の仕組みを教えてもらっています



武 蔵野赤十字保育園では、5歳児を対象に「ぬいぐるみ病院」を開院しています。杏林大学医学部の学生ボランティアがお医者さんとして来てくださり、「ご飯やおやつは胃に入るよ」「息をして空気が入るところは肺で、聴診器で聞くとヒューと音がするよ」など、臓器の位置や役割について、フェルト人体模型やイラストを使ってわかりやすくお話ししてくれます。

## 「しっかり診てもらおうね」

ぬいぐるみの診察では、園児が好きなぬいぐるみを選び、親となって名前を付けるところから始まります。

ぬいぐるみがどんな病気や怪我なのかは園児自身が決めて、医師の診察を受けます。診察時、ぬいぐるみに「怖くないよ、大丈夫だよ」「しっかり診てもらおうね」と語りかける子も。ぬいぐるみの症状を医師に伝える口調は、まるで大人の雰囲気です。

診察の後は、お薬を飲ませたり湿布を貼り替えたり。世話をしながらぬいぐるみと数日間、一緒に生活します。園児たちは、すっかりぬいぐるみのお父さん・お母さんになります。

## 赤十字子供の家

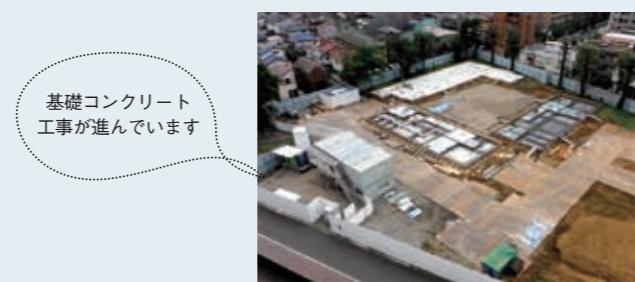
12月の完成めざし  
移転新築工事真っ最中！

赤 十字子供の家では、今年12月の完成をめざし、移転新築工事を進めています。昨年度末に工事が着工、現在、児童棟2つと管理棟の基礎コンクリート工事を行っています。設計関係者や業者、東京都支部職員、当園職員との間で打ち合わせを重ね、この建物で生活する子どもたちや交流に来られる保護者の皆さん、働く職員にとって、快適で落ち着ける空間となるようにと知恵を絞っています。

## 「つながり」がキーワード

今回の建て替えにあたっては、多摩美術大学の先生方にも参加していただき、「つながり」をコンセプトに家具やラグ、カーテン、園庭の製作に関わってもらっています。完成したら、独創的でありながらも落ち着く空間が広がるだろうと期待しています。図面として描かれていた物が、日に日に立体化していく様子はワクワクドキドキです。ますます期待感も膨らみ、完成する日を職員一同、心待ちにしています。

子供の家では「生きる力を育み、自立へと共に歩む」を基本理念とし、日々過ごしています。今後も、さまざまな事情により家庭で暮らすことが難しい子どもたちが健やかに育つよう、努力を重ねていきます。



献血セミナーに関するお問い合わせは、  
東京都赤十字血液センター企画課  
☎ 03(5272)3512まで

## 献血のことを、もっと知ってほしい！

～東京薬科大学で献血セミナーを初開催～



東

京都赤十字血液センターでは、将来にわたって安定的に輸血用の血液製剤を供給できるよう、10代から20代の若い世代を対象に「献血セミナー」を開催しています。赤十字の血液事業の歴史や輸血・献血について知つてもいい、輸血を受けた患者さんのメッセージ映像も上映。これらの講義を通して献血について理解を深めてもらうことが目的です。

学生たちは皆、真剣な様子で講義終了後に直接、講師に質問に来る学生もいました。講義を受けた学生からは「医療人の卵として輸血・献血の理解が深まった」「これから献血します!」などの感想がありました。

が

ありました。



今回は薬学部生が対象だったため、血液事業に関する医学的に踏み込んだ内容も盛り込みました

医療人の「卵」たちに講義 4月7日には今年度第1回目となるセミナーを東京薬科大学で初めて開催。同大学の下枝貞彦教授にご協力いただき、将来、医療に携わる薬学部生の1年生425人が参加してくれました。

続いて5月8日には、武藏野赤十字病院の医師と臨床検査技師による「輸血医療最前線」をテーマにした講義も行われ、10日には毎年恒例の学内献血を実施。セミナーの効果もあり、献血会場では「講義を受けたので気になつて来ました」「針が怖かつたけれど、看護師さんに優しくしてもらつて無事採血できました」などの声が聞かれました。

## 小中高生向けのセミナーも

東京都赤十字血液センターでは、薬学部生や医学部生だけではなく、小中高生や大学生に幅広く献血セミナーを実施しています。あなたの通っている学校でも、ぜひ企画してみてください！



大勢の学生の皆さんに参加いただきました



誘い合って初めての献血に来てくれた学生たち

苦しい避難生活が続く日々

# シリア危機7年目の「いま」



中

東・シリアの紛争は7年目にに入りました。い

まだに終息が見えないなか、避難生活も長引き、状況は悪化しています。

「家に帰りたい。でも、すべて失ってしまった」

10人の娘がいるザガーブさんは2年前、故郷ラッカの家が兵隊に奪われ、着の身着のまま逃げてきました。持ち出せたものは一ロカードと学校の証書だけ。密輸業者のトラックに乗せられてダマスカスに移動しました。移動中、2人の娘が誘拐されてしまい、多額のお金を支払い返しもしました。

「最近、レバノンに移りまし

「もし、できるなら故郷に戻りたい。でも、ラッカではすべてが破壊されています」というザガーブさん。未来に希望が持てずにいます。

たが、シリアの故郷での生活を思い出すと、悲しくて仕方がないです。シリアでは私たち夫婦は仕事をあり、長女は大学を卒業しました。今、下の娘たちは学校に行けずにいます」とザガーブさんは語ります。「赤新月社※や赤十字社が支援をしてくれたので、こうして生きています」とも。

「髪型と人生を変えるの！」

半年前、ダマスカス郊外のアパートの一室に、友人の口一ダと一緒に美容室を立ち上げたアマニさん。

「5年前、故郷から夫と2人の子どもとともに逃げてきましたが、連絡がとれなくなました」と話します。

「自宅と夫を失ったアマニさん。美容師になりたいという昔からの夢と、家族を養うため、シリア赤新月社が支援している職業訓練コースに申し込みました。美容室の顧客もだんだん増え、「もっと大きな店にしたい」と夢を語ります。



戦闘が激しくアクセスの困難な地域では、赤十字の救急車で巡回診療を行っている(©レバノン赤十字社)



ザガーブさん(©レバノン赤十字社)



アマニさん(©レバノン赤十字社)

※赤新月社:イスラム圏における赤十字社の呼び方

日本赤十字社は、国際赤十字の一員として、シリア難民などに対し、医療や食料の支援をはじめ、難民の命と尊厳を守るために支援活動を続けています。中東人道危機救援金(2018年3月31日まで)に、ぜひご協力ください。

【ご協力方法】クレジットカード、郵便局、お近くの赤十字窓口

日赤 中東

検索

小学校入学率

98% → 61%

-37%

2010年に100%近くだった小学校入学率は2015年に61.5%まで減少しました。

出典:UNESWA/University of St Andrews, Syria at War Five Years On

平均寿命

70歳 → 55歳

-15歳

2010年に70.5歳だった平均寿命は2015年に55.4歳まで縮みました。

出典:Syrian Center for Policy Research, Syria Confronting Fragmentation! 2015

貧困層の割合

28% → 83%

+55%

2010年に人口の28%を占めていた貧困層の割合は、2015年に83.4%にまで増加しました。収入の減少、物価の高騰、失業率の増加などが背景にあります。

出典:UNESWA/University of St Andrews, Syria at War Five Years On

紛争によって、いま何が起きているの?

# 行け！ Oレジピーターオルト★日赤おけいきレポ

毎年恒例、表参道での日赤イベント  
といえば、5月8日世界赤十字デー！  
赤十字創始者、アントリ・デュナンの  
誕生日なんですね。  
今年もイベントがいい感じで、最高に  
盛り上がっていましたよ

- Vol.8 世界赤十字デー in 表参道 2017 編 -



## 島の“生き字引”との出会い 〈青ヶ島 取材後記〉



「マツミ荘」主人の佐々木宏さん。居酒屋「もんじ」の常連で、歌好きが高じてCDを出しているほど

威儀がありそうだが、私たちを出迎えてくれた佐々木さんは派手なオレンジのTシャツ姿。このゆるい感じ、さすが島！ 気持ちが一気にほぐれた。

佐々木さんからは島の貴重なお話をたくさんお聞きした。いまや島の交通として欠かせないへりは、佐々木さんが村長時代に導入したそうだ。取材してきた島民の名前をあげると、逐一解説してくれた。

島のあの濃密な人間関係はきっと、

かつての本土にもあったものだろう。昔の日本に戻ったような、懐かしい気分を味わった取材旅行だった。(W)

NT取材班3人が宿泊したのは、民

宿「マツミ荘」。ご主人の佐々木宏さんは1989年から3期12年間、村長を務めていた人物だ。こう書くと、さも

威儀がありそうだが、私たちを出迎えてくれた佐々木さんは派手なオレンジ

### 前号のプレゼント当選者

**A** FIRE挽きたて微糖

郷和子 (北区)  
宮田暁 (神奈川県横浜市)  
大澤英美 (豊島区)  
黒沢龍一 (葛飾区)  
杉浦佐知子 (墨田区)  
福井さや (千葉県松戸市)

**B** 午後の紅茶 ミルクティー

永作恵子 (中野区)  
矢田眞 (大田区)  
阿知和rika (世田谷区)  
堀裕介 (江東区)

**C** ダイアナオリジナルマグカップ

日向さら子 (調布市)  
山内直樹 (国分寺市)  
濱田賀代子 (昭島市)  
東田佳奈 (日野区)  
天野涼子 (世田谷区)

**D** 本革オリジナル名刺入れ

大垣美代子 (葛飾区)  
伊藤博輝 (昭島市)  
池田勝美 (埼玉県和光市)  
黛敏子 (北区)  
西尾輝 (府中市)

**E** カラダカルビズ

菅原敦之 (文京区)  
石田晴子 (板橋区)  
富永未蘭 (狛江市)  
鈴木優子 (豊島区)  
安藤和美 (国立市)

**F** オリジナルトートバッグ&ベン

長屋貴彦 (練馬区)  
伊藤博輝 (昭島市)  
池田勝美 (埼玉県和光市)  
黛敏子 (北区)  
西尾輝 (府中市)

**G** フルーツハーブティー

對馬美穂 (千葉県船橋市)  
柏木めぐみ (西東京市)  
清水澄江 (台東区)  
神永弘美 (中野区)  
加藤菜水 (神奈川県大和市)

※敬称略・順不同

### NT Loungeのご案内

日本赤十字社東京都支部1階

どなたでもお気軽にご利用いただけます。  
是非お立寄りください。



Vol.14  
2017年7月発行

バックナンバーは  
こちらからお読み  
いただけます。



■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 新宿区大久保1-2-15 Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後の内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。

ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosskoto/>

年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。

## 活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。  
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは  
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区	○目黒区	石川 良夫	10万円
荻原 貞治	長田 信夫	石川生コン(株)	30万円
菅佐原 良司	日野 優光	(株)衛生微生物研究センター	20万円
(一社)東京環境保全退職金共済会	(株)昭和イーティング	(株)稻葉製作所	10万円
サンフロンティア不動産(株)	(株)システムサイト	●江戸川区	
(株)朝日写真ニュース社	●大田区	嶋田 廉三	10万円
中日マテリアル(株)	池野 公脩	(株)水域ネットワーク	20万円
日本エンゼル(株)	熊倉 登久子	関東商事(株)	10万円
(株)インフォーム	白井 芳子	●八王子市	
サンベック(株)	蓮光院	齋藤 元泰	20万円
●中央区	嵯峨電機工業(株)	高津戸 道夫	20万円
岩上 公一	東京マルコメみそ販売(株)	早川産業(株)	10万円
大地 カウ	●世田谷区	●立川市	
栄香料(株)	小嶋 淑子	荒井 三代子	10万円
日本カーボン(株)	小嶋 召子	中村 智英子	13万円
(一財)寧波旅日同郷会	(株)シナジーカンパニージャパン	中村 陽子	10万円
(株)モーリ	13万200円	鳴島 幸枝	10万円
(株)レヴェル	●渋谷区	金子 利津子	10万円
●港区	(有)外川ビル	(宗) 真如苑	3,500万円
中江 宏	(株)ライフプラザ NEO	中村建設(株)	70万円
アパホテル(株)	(有)宮泰	●武蔵野市	
170万4,000円	(株)ワタナベエンターテインメント	山崎 喜哲	20万円
(株)ジェイビーホンダエージェンシス	●中野区	網野 弥生	10万円
100万円	戸原 章子	●三鷹市	
イーパートナーズ(株)	●杉並区	佐藤 多満代	10万円
40万円	外川 清	●青梅市	
(一財)世界聖典普及協会	本橋 忠藏	浜中 教孝	20万円
30万円	(株)ランクロードオフィス	三和工機(株)	10万円
(株)フィットコーポレーション	100万円	●昭島市	
ソレイジア・ファーマ(株)	(株)サンライズ	本多 友彦	10万円
10万円	(株)システム総合研究所	●町田市	
(有)藤井クリーニング	25万円	秋川 貴志子	100万円
10万円	コムシステムエンジニアリング(株)	近藤 徳彌	100万円
(株)プライム・オリジンズ	10万円	武川 節	100万円
ミツワシステムズ(株)	●豊島区	笠井 和雄	10万円
10万円	芹川 晴彦	●小金井市	
●新宿区	佐伯 弘子	鈴木 富雄	10万円
横村 武宣	100万円	●小平市	
出井 弘八	10万円	小林 守久	10万円
(株)東陽工業	10万円	●国立市	
(株)瓜スピリット	10万円	保科 寛之	10万円
●文京区	(株)北電子	渡辺 恵子	10万円
佐藤 勝彦	192万3,780円	●西東京市	
(株)プロシップ	首都開発(株)	(有)スタジオトウインクル	30万円
トリヤマ(株)	メルスモン製薬(株)	●福生市	
20万円	ロイヤル商事(株)	大熊 信博	10万円
●台東区	●北区	●狛江市	
高神 信也	金子 三四男	高木 和江	20万円
野口 香代子	匿名	加藤 朱実	10万円
匿名	(株)トリスえ	●清瀬市	
石福ジュエリーパーツ(株)	(株)日新建設	コーヒーハウスるぽ 森尻 安夫	15万円
50万円	●板橋区	(株)アーダブレーン	10万円
玉姫稻荷神社こんこん靴市実行委員会	瀬戸川 瞳人	●武蔵村山市	
12万2,695円	山本 照子	(有)ワタヤ	10万円
光正不動産	●練馬区	●西多摩郡	
10万円	横山 浩之	久馬 美智恵	50万円
●墨田区	高原 正雄	●埼玉県	
木塚 靖夫	(株)角産	(株)クリスティ	50万円
20万円	金子建材(有)		
武田 紀久江	10万円		
木塚 秀江	10万円		
(株)ワーカーハウス	10万円		
12万円	小倉 伸一		
(株)システム	200万円		
(株)木場リサイクル	足立 義夫		
(株)辰商	10万円		
●品川区	鈴木 翁八		
海沼 実	堀内 秀晃		
200万円	愛建機材(有)		
金森 利幸	(有)タミヨ窓建		
10万円	11万1,100円		
菅野 鴻三	●葛飾区		
10万円	月村 泰之		
	10万円		

(敬称略・順不同)

日本赤十字社東京都支部の協賛企業からご提供いただいています。  
ご応募、お待ちしています!

A.



3名様

B.



430ml  
24本入り  
3名様

C.



165ml  
30本入り  
3名様

青ヶ島特産「ひんぎやの島とうがらし」

●青ヶ島

青ヶ島特産の島唐辛子を原料にした一味唐辛子。〈ひんぎや〉の地熱で乾燥させてつくる島の特産品。

生茶

緑茶の飲み方や、日常生活の緑茶のあるシーンを変え、心豊かで上質な生活してくれる未来のGreen Teaをめざしました。

FIREエクストリームブレンド

●東京キリンビバレッジサービス株式会社

FIRE史上最も深く焼いた焦がし焼き豆を15%使用。今までにない「突き抜けた香ばしさ」を引き出したブレンドコーヒーです。

D.



5名様

オリジナルハンカチ

ピンク地に全面靴のデザインをあしらったフェミニンなハンカチ。綿100%、日本製。

E.



3名様

スマールレザーグッズ

●ダイアナ株式会社

ポニー(馬)素材を使用。小銭入れや小物入れにも使用可能。オレンジの発色が鮮やか。日本製。

F.



500ml  
24本入り  
5名様

カルピスウォーター

●アサヒ飲料株式会社

すっきり爽やかな味わい、純水でおいしく仕上げた「カルピス」です。乳酸菌と酵母、発酵という自然製法が生みだす独自のおいしさを、いつでもどこでも手軽に楽しめます。7月7日(七夕)は「カルピス」の誕生日です。

## プレゼント応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤性別 ⑥メールアドレス ⑦本誌入手場所 ⑧本誌で良かった記事⑨本誌の感想(100文字程度)⑩希望するプレゼント番号を明記し、はがきまたはメールでご応募ください。抽選でプレゼントが当たります! 締切は2017年8月31日。当選者は次号誌面で発表します。

■件名には「プレゼント応募」とご記入ください。

はがき ▶ 添付の専用はがきでご応募ください。

メール ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。  
※お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただく場合があります。

協賛品募集中! お問合せは▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

読者の声  
(vol.13)



献血事業以外の赤十字の活動をあまり知らなかったので、減災セミナーの内容はとても興味深かったです。いつ大きな地震が起こるかわからないという意識を持って、非常時に対処できる用意を心がけておきたいと思います。

埼玉県戸田市・33歳・女性(献血ルーム 池袋いへすと)

NTの本の中に、赤十字に奉仕されている会員、ご婦人の皆さまがとても幸せそうに、にこやかな微笑で活躍なさっているご様子が私の心に深く刻まれました。

大田区・92歳・女性(郵送)

パックナンバーはこちら  
<http://www.tokyo.jrc.or.jp/kohoshi/>

赤十字は献血だけではなく、災害に強い地域づくりにも力を入れ、それは募金や支援者の協力によるものだと初めて知りました。赤十字についてふれられる街として、表参道が載っていたのでぜひ行ってみたいと思います。

台東区・32歳・男性(職場)

日本赤十字社には、大学生等も多く参加していること、若い人たちが力になってくれていることには、とても感謝しています。

練馬区・54歳・女性(献血ルーム 池袋ぶらつと)

※( )はNTの入手場所

# 赤十字は、ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい」と言われることがあります。

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解されやすいかもしません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることがあります。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に対する取り組みなど、皆さまの身近なところで活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが当たることのないジミな活動も大切にします。

これが赤十字のジミチです。

## 九州北部大雨災害

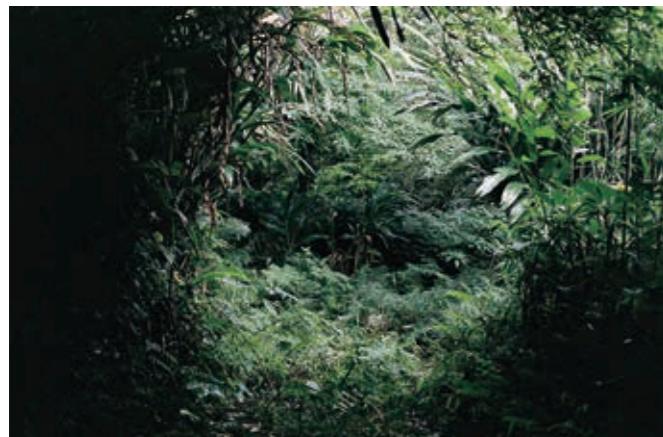


被災地のぬかるみを進む医療救護班

被災された方々を支え続ける赤十字のジミチな活動。

7月5日からの断続的な大雨により、九州北部では甚大な被害が発生しています（福岡・大分両県で不明19人死者30人※7月13日現在）。それを受け赤十字病院の医療救護班が避難所を巡回し、医療ニーズの調査や傷病者の救護を行っています。また、体育館などの避難所で一夜を明かさなければならない方々に、毛布や安眠セット等をお届けしています。今後も避難生活を強いられる方々には継続的な支援が必要とされており、日赤は組織力を活かした息の長い支援活動を展開していきます。

- このような被災地での活動や被災された方々を支える救援物資などを含めて
- 日赤の活動は皆様からお寄せいただく活動資金により運営されています。



十 東京観光写真倶楽部  
TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を「観光」しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社専属カメラマンである菅原一剛氏。東京の写真を撮り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>



第7回 青ヶ島



「おもうわよう」

それは島を離れる人を見送る時に「離れていてもずっと思っているよ」という気持ちを伝える言葉。

東京諸島のうち小笠原諸島を除く9島の最南端の有人島である青ヶ島は“絶海の孤島”という枕詞とともに語られ、二重カルデラの島の形や〈ひんぎや〉と呼ばれる地熱の蒸気噴気孔などが取り上げられることが多い。

それらの“キャッチャーな”見どころに静かに寄り添うように、島の方々の生活はある。

1785年の天明の大噴火による全島民避難。50年後の帰島を指す〈還住〉という言葉からは、苦難を乗り越えて島への帰還を待ち望んだ人々の気持ちが伝わってくる。

活火山とともに生きる島。だからこそ「おもうわよう」という言葉は島の日常風景となったのだろうと思う。



この活動の目的は、  
もはやさや明るさをもつて活動する  
人間を増やすこと。  
その上で、地域に溶け込む  
事で、社会貢献の意識を高めること。  
人がいきいきとしている。

# わたしの一歩 ONE STEP

Vol.  
05

よしざき  
吉崎 葉



## Profile ● Shiori Yoshizaki

十文字学園女子大学2年生。人間生活学部で心理学を勉強中。4月から東京都学生献血推進連盟の会長を務めている。

## みんなと一緒に成長できるのが嬉しい

**赤** 十字の活動は、大学1年生の時にゴールデンウィーク献血の呼びかけに参加したのが初めてです。大学の部活にボランティア部があって、その活動の一つに赤十字があるんです。献血の呼びかけなら気軽にできると思い、友人を誘って参加しました。その時、先輩たちの呼びかけの姿を見て、「すごい！」と感動しました。

活動を上手に仕切っていて、先輩たちのことは本当に尊敬しています。同じところに到達するのは難しいことだと思います

ますが、4年生になる頃には、私もそんな風になりたいです。

ボランティアや赤十字の活動になぜ参加しているのかというと、人の出会いがあるし、良いこともできるから。高校まではボランティアに参加できるような環境になかったので、大学にボランティア部があつたら入ろうと決めていました。

ボランティアは、人のためにも、自分のためにもなるもの。どうすれば活動がうまくいかメンバーや話し合うなかで、自分と違う意見も聞けて勉強になります。

みんなと一緒に成長できているのがいいですね。

まだまだ若者が献血をする割合は低く、同世代に献血してもらうことが課題です。だから、呼びかけをしていて、若い世代が献血に来てくれると本当にうれしいです。赤十字では毎年、「はたちの献血」キャンペーンをやっていますが、私は今年ちょうど20歳になるし、ぜひ、私たち学生も同世代のみんなへの呼びかけに参加して、キャンペーンを盛り上げる一員になれるらと思っています。

